

解禁日時：令和4年12月28日（水）午後5時以降



令和4年12月28日	
所 属	災害対策課
所属長	森本 仁信
電 話	06-6489-6165

令和4年度「1.17は忘れない」地域防災訓練について

1 目 的

この訓練は、兵庫県が定める「ひょうご防災減災推進条例」に基づき、尼崎市と尼崎市教育委員会が主催するもので、阪神・淡路大震災の経験と教訓を次世代へと継承し、次の大災害への備えや対策の充実を図るため、毎年、「ひょうご安全の日」である1月17日を中心に実施しているものです。

2 実施日時

(1) メイン会場

令和5年1月17日（火） 午後1時45分から3時35分まで

(2) 地区会場

令和5年1月17日（火） 5限目開始時刻から6限目終了時刻まで

※ 地区会場の実施時間は、会場によって異なります

(3) その他会場

令和5年の減災月間中（1月中）

3 実施場所

(1) メイン会場

尼崎市立中央中学校（東七松町2丁目5番67号）

(2) 地区会場

小田地区：小田北中学校（神崎町24番1号）

大庄地区：大庄北中学校（大庄北1丁目8番1号）

立花地区：塚口中学校（富松町4丁目31番1号）

武庫地区：武庫東中学校（武庫之荘7丁目35番1号）

園田地区：園田東中学校（東園田町5丁目79番地）

(3) その他会場

市立中学校（メイン会場、地区会場を除く。）、市立小学校及び特別支援学校

4 訓練想定災害

上町断層帯地震（マグニチュード7.5 震度7）を想定

5 訓練参加機関

学校関係者（児童生徒、教職員、PTA）、尼崎市消防団、尼崎市社会福祉協議会、自主防災会、保育所、福祉事業所、ボランティア団体 他

6 訓練の特徴 ※訓練内容は会場によって異なります。

(1) 避難所開設・運営訓練（メイン会場、地区会場共通）

- ・避難部、地域支援部各方面避難班、地域住民、中学生が連携し、コロナ禍における避難所運営マニュアル（以下「マニュアル」という。）の確認と実践的訓練による実効性の検証を行う。
- ・これまで防災訓練への参加に声掛けを行っていなかった多様な地域団体と訓練参加を通じて新たな連携を図る。
- ・令和2年9月に実施した「兵庫県・阪神地域合同訓練」で得られた教訓として「健康確認が困難な避難者への対応方法」、「非接触型体温計では検温できない場合の二次検温」、「体調不良（発熱）者と健康な者とのゾーニングの目安となる体温基準の設定」について、マニュアルに反映したものを、本市職員や地域住民と共有を行う。

(2) 要配慮者支援訓練（メイン会場のみ）

- ・北部・南部地域救護班・地域援護班の保健師、栄養士、事務職が、チームとなり、要配慮者スペースに避難している方への聞き取り訓練を実施。
- ・地域援護班の栄養士が、咀嚼機能の低下している要支援者でも食べられるよう、パッキングの実演を行う。

(3) 災害対応応急実技訓練（メイン会場、地区会場共通）

- ・消防部各方面隊により、中学生に対して傷病者の搬送方法や応急手当法等、災害時に必要となる知識・技術の習得に資する体験型訓練を行う。

(4) 災害マネジメントシステム・防災情報伝達システムを活用した訓練（メイン会場、地区会場共通）

- ・災害マネジメントシステムを活用して、避難部においては、避難所の開設状況の報告、本部広報班においては、避難所の開設状況を、ホームページ上で公表、総括部総括班においては、県フェニックス防災システムに避難所の開設状況を入力し、県へ報告を行う。
- ・防災情報伝達システムを活用し、地域支援部（地域課）より自主防災組織への情報発信を行い、災害時の情報伝達のイメージを高めるとともに、自主防災組織から地域住民への拡散状況については、アンケート機能を活用して検証を行う。

以上

メイン会場 訓練進行表

		1345 1350 1355 1400 1405 1410 1415 1420 1425 1430 1435 1440 1445 1450 1455 1500 1505 1510 1515 1520 1525 1530 1535			
災害対応 応急実技訓練 【教室・運動場】	中央中学校 教職員(40名) 生徒(640名) PTA(2名) 消防団(12名) 消防局(10名)	【避難訓練・安否確認訓練】25分	【災害対応応急実技訓練】70分	【振り返りタイム】15分	
		【13:45~14:10】 授業中に被災。 シェイクアウト訓練を実施。 全生徒は教職員の指示に従い グラウンドへ避難。 屋外にて安全を確保した後、安 否確認を行う。	【14:10~15:20】 中学1年生の4クラスを、3班に分けた後、運動場南側に設けた3つの訓練エリアを 巡回し、身近な物を使用した応急手当をテーマとした訓練を行う。 (※雨天時は、多目的室、コンピューター室、武道場の3部屋間を移動し実施) 各訓練エリアにおける訓練所要時間は20分間、訓練エリア間の移動時間は5分間以内と する。 ①止血(20分)、②固定(20分)、③応急担架(20分)	【15:20~15:35】 訓練の振り返り (クラスで実施)	
避難所 開設・運営訓練 要配慮者支援訓練 【体育館】 舞台側半面	自主防災組織 西難波(9名) 中難波(2名) 中央(10名) 民生児童委員(2名) 中学生(40名) 避難部(3名) 地域支援部 中央避難班(2名) 保健援護部(9名) 尼崎市身体障害者 連盟福祉協会	【オリエンテーション】10分	【避難所開設・運営訓練】60分 ・ 【要配慮者支援訓練】20分 計 80分	【振り返りタイム】15分	【講評等】15分
		【13:45~13:55】 ・参加者に対し、訓練の趣 旨、実施要領 等の説明を行 う。	【13:55~14:55】 ・発災から24時間以内を想定。公助のみならず、自助、共助の連携を目的とし、新型コロナウ イルス感染症対策に対応した避難所開設・運営及び要配慮者に対応した福祉スペースの設営 (ダンボールベット、パーテーション)を実働訓練形式で実施。 【14:55~15:05】 ・北部・南部地域救護班・地域援護班がチームとなり、要配慮者スペースに避難している方に 聞き取り訓練を実施。(保健師・栄養士・事務職 3人1チーム×3チームを予定) 【15:05~15:15】 ・南部地域保健課の栄養士が保健師とともに巡回訪問している想定。咀嚼機能が低下してい る要支援者でも食べられるよう、パッキングの実演を行う。	【15:15~15:30】 避難所開設・ 運営訓練、要 配慮者支援訓 練の内容につ いて振り返り を実施	講 評 (中 央 地 域 振 興 セ ン タ ー 所 長) 訓 練 総 括 (市 長)
地域への情報 発信伝達訓練 【会場以外】	地域住民 自主防災組織 地域支援部(1名)	【地域への情報発信伝達訓練】※随時			
		・防災情報伝達システムを活用し、地域支援部(地域課)より自主防災組織への情報発信を行い、災害時 の情報発信のイメージを高めるとともに、自主防災組織から地域住民への拡散状況についてはアンケート 機能を活用して検証を行う。			
災害マネジメント システムを活用 した訓練 【会場以外】	総括部(2名) 広報班(1名) 避難部(2名) 教職員(1名)	【災害マネジメントシステムを活用した訓練】※随時			
		・災害マネジメントシステムを活用して、避難部においては、避難所の開設状況を報告、本部広報班にお いては、ホームページ上での公表、総括部総括班においては、県のフェニックス防災システムに避難所 の開設状況を入力し、県へ報告を行う。			
		1345 1350 1355 1400 1405 1410 1415 1420 1425 1430 1435 1440 1445 1450 1455 1500 1505 1510 1515 1520 1525 1530 1535			